

## 新潟湊の鯛車

鯛車は、その昔、信濃川下流域の人達の願いで生まれ、発展した郷土の文化遺産であり、平和のシンボルでも有ります。

新潟地域で永年行われていた子供達の鯛車と提灯行列の行事は、戦争の混乱によりその余裕も無くなり中断し、その後再開されることも無く新潟島の人達の脳裏から鯛車は消えてしまいました。

鯛車に関係した歴史資料が乏しく困っております。現在80歳代の方で当時の鯛車や提灯行列の様子をご存知の方はどんな些細な事でも結構です、情報を下記迄お知らせ下さいます様お願い申し上げます。

新潟市西蒲区の巻鯛車復活プロジェクト様に於かれましては御地に永年保存されていた鯛車を復元し、復活の糸口を見出された事により、信濃川下流の私共の僅かながらの記憶を甦らせる、きっかけに成りました事を、ここに感謝申し上げます。

### 柳都わいやらの会では

新潟島に昔鯛車があった事を皆さんに知って頂く為に当面PR活動は積極的に行います、しかし新潟の宝で有る鯛車を客寄せパンダで終わらせたくない。どの様な使い方が適切か、今後の課題です。二度と鯛車が忘れられる事の無いように、後継者の育成と、歴史の探求を心掛けて参りたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

新潟湊の

# 鯛車



鯛車発祥の歴史  
新潟まつりと鯛車の繋がり

### 参考文献

新潟市発行歴史図書  
新潟市保存歴史資料  
新潟県立図書館資料  
国立国会図書館資料  
網干嘉一郎著書抜粋

上記資料を参考に記載しておりますが今後の調査により変更される箇所が出るかも知れませんのでご了承願います。

無断複製：転載禁止

編集：イラスト 佐藤聖峰  
鯛車歴史資料 斎藤栄路

企画・製作 **柳都わいやらの会**

新潟市東区東明二丁目2-11 電話 (025) 287-2111  
<http://ryuto-waiyara.net/> FAX (025) 287-2112

会員募集中 (新潟まつり参加・鯛車の製作教室)

新潟市水と土の文化推進課

みづつち文化創造2014

この事業は新潟市からの補助金を受けて実施しています

表紙の鯛車は広報及び祭り用に造られたものです



灯火式鯛車は（一部を除き）下越地方周辺にしか見あたらない。

鯛車（たいぐるま）とは、江戸時代からの玩具で日本各地にあります。それは男の子の着物の柄であったり。博多人形の素焼きで色づけされた飾り物や、木製などでも多く見られます。その他、鯛の形をしたちょうちん等では手さげ棒付きの鯛ちょうちんが知られています。中にローソクを入れて明るく灯し手で曳いて歩ける車付きの鯛車は、島根県大社町以外では中・下越地方の信濃川流域にしか見当たりません。



## 江戸時代より巨大な出車が造られた

新潟住吉祭りでは、江戸時代より祭りの山車は年々大型化され鯛ばかりでなく其の時代の色々な話題になる造形物が造られました。それを各組で競い合って造り、祭りは最高に盛り上がりました。

## 新潟住吉祭り禁止される

新潟町の人達は祭り好きで4日も5日も飲んだり喰ったり踊ったりで仕事もせずに祭り三昧でした。そこで到頭お上から風紀上宜しくないとの事や、節約しなさいとの事で、住吉祭りが禁止されました。最初の明治五年の時は9年間禁止されました。その後も度々禁止されたり再開したりの繰り返しでした。その祭り禁止中の新潟町は、住吉祭りの時期が来ても禁止前であれば準備の笛や太鼓の音がしたのに、この世の終りのごとく静かで町民の寂しさはひとしおだった事と思います。

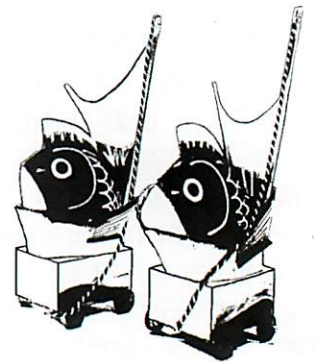
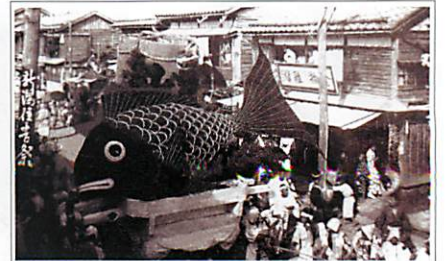
## （仮説）灯火玩具の鯛車は新潟町で発展した

そこで考えられたのが中にローソクで明かりがともる灯火式の鯛車です。これは新潟町の人達が必要にせまられて年数を掛けて発展させていったものと思えます。それを子供達に曳かせたのが当時の祭りの山車に変わる鯛車と手下げ提灯での行列でした。これはまさしくお祭りごっこであり鉄道模型を見るようなものでした。大人も子供達も祭り縮小版のこれが大変な慰めになりました。

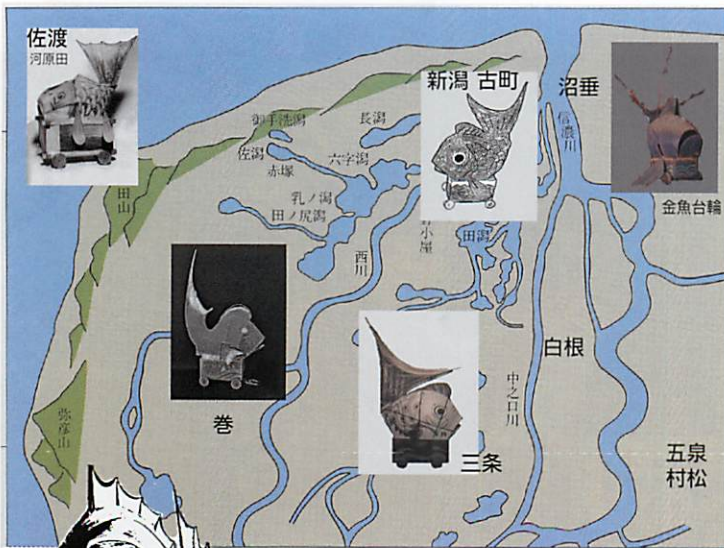
大正三年新潟住吉祭りの絵はがき



車付きで中に大きなローソクが灯された



陸海河運で伝播して歴史書に鯛車があったとされる地名



## 新潟町の提灯行列（鯛車）は祭りが有った時期に合わせた町内一巡の行列だった。

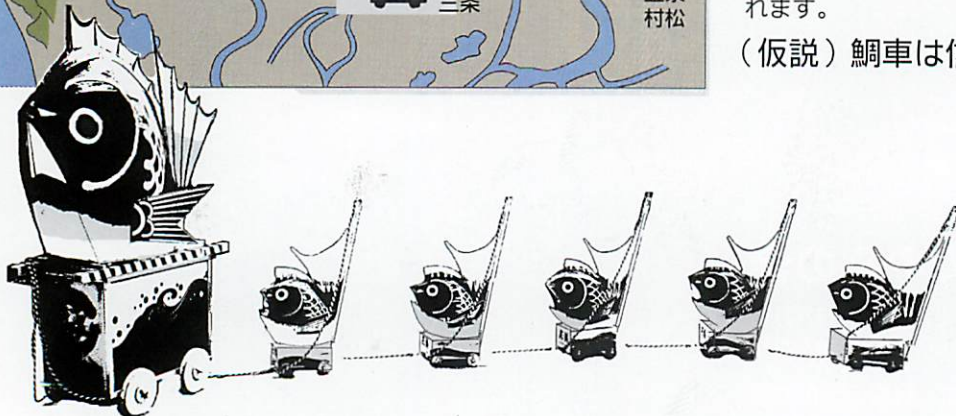
ちょうちん行列は例年祭りが有った時期より始まりお盆すぎ迄の間行いました。子供達は大声で「ちょうちん行列集まれよ、おじもおばも集まれよ」と友達を呼び歩き、一通り集まると列を整えて「ホーランヤーノアララゴドッコイシヨ ヨーイトコ ヨーイトコナー」と祭りで大人が謡っていた木遣りをまねて謡いながら町内を一巡したものです。

新潟市在住の版画家 植木須美子さんは絵本の中に、昭和のはじめ男の子は夏になると黒縹子に丸金の紋の「金太郎さん」をつけておちんちは丸出しだった。鯛車は金魚台輪という所もあるようだが父親が息子のために手作りしたものだと言った。素晴らしいデザインだと思う。と書いておられます。

## （仮説）鯛車は信濃川や陸運、海運で伝播した

その鯛車は新潟町から周辺各地に伝わっていきました。其の過程でそれぞれの地域で尾びれに変化がみられます。地域の特長を出すため故意に違いを出したものと思う。

現在調査中ですが、長岡藩領地の新潟町から。新発田藩領地の沼垂に伝わる時は、鯛ではなく尾びれを極端に変えて、金魚にしたものと思われる。当時近くの亀田町が金魚と、どじょうの産地だった事も関係有か沼垂の茶舗、山路園様に今も古い金魚台輪6台保存されております。



子供達の鯛車と提灯行列は、昭和の時代になっても延々と受け継がれて来ましたが、残念な事にその行事自体が、あの戦争の大混乱により余裕すら全く無くなり中止されました。その後人々の脳裏から新潟に提灯行列が有った事も。可愛い鯛車の記憶も薄れてしまいました。